

BOAT RACER'S HOTLINE

山下夏鈴

Karin YAMASHITA

成績は4月18日現在

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
5013	三重	三重	121	27	A2	5.54	3.88	172	3	2	1771万2834円	7875万3303円



本部めぐみになりたかった幼少期 まくり一撃“夏鈴砲”で魅了する

○本部めぐみへの憧れ
——ポートルレーサーになったきっかけは？

母と本部めぐみさんが知り合っただったんです。だけど実は母も私も本部さんがポートルレーサーということを知りませんでした。私は元々、人として本部めぐみさんのことが好きだったんです。私の母とは正反対で(笑)優しい。そんなめぐみさんがレーサーということ、を小学校の頃に知りました。ヘルメットをかぶって、ポートルに乗ってレースしているということを知って、ギャップを感じたというか、かっこいいなと思いました。それでレーサーになりたい……というより、本部めぐみさんになりたかったです。

——その後、本格的にポートルレーサーを目指す。

本部めぐみさんになるにはポートルレーサーになるしかないですからね(笑)。養成所の試験は高校を卒業してから受けようと思っていました。当時は新体操をやっていたので、インターハイや国体に出たいという目標もありました。養成所は2回目の受験で合格しました。

——養成所時代は？

操縦とか整備とかの成績は良かったと思うんですけど、学科が良くなかった。エンジンの理論……とか理解できないし、計算も苦手で……。頭に詰め込むのがどうにも……。教官からも「ポートルだけ乗れたらいいと思うなよ」と思われていたはず。

○レーススタイル
——山下夏鈴選手の魅力はスタートを決めての一気の攻め。

スタートの精度がいいからまくれているということではないんです。私のレースをよく見てもらっている方には伝わっていると思うんですけど、単純に差しとかまくり差しができないんです。2コースから差して1着というのは以前に比べたら増えています。だけど差し切りというよりは、差したところから伸びて勝ったというだけなんです。1マークを回った時点で差し切っているというのは基本的にないんですよ。それで勝てないから、まくりでしか勝てないと思っています。

——とはいえ、まくりは大きな武器。

最近では武器と言えないですね。スタート事故も多い。休み中にどれだけ練習しても、休み明けのレースがなっていないんです。事故率の関係もあって、ゴールをすることが優先になってしまふ。そこで我慢できても、ストレスが溜まって次の期にまたフライング……。その繰り返しになってますね。

——それでも25年前期に初のA2級昇格。

期はじめに優勝して、自信を持って走れたことが大きかったですね。調整面も合って、行き足から伸びにかけて仕上がることが多かった。1周1マークで優勢な場所からレースをすることができました。多少リスクを背負ってでも攻めて行っていました。今はフライ

ングをしたくないという気持ちが強くなっていますね。

——調整面、攻め方に変化。

乗り心地重視の調整にも挑戦をしています。それでもやはり自分の持味はまくりというのは分かっています。差して勝つことができても嬉しいんですけど、「まくりたかったなあ」という気持ちにもなりますね。スリットでのぞいていないと「うわあ……差さないといけない」と思ってしまう。やっぱり差すのは好きではない。ただ、まくりだけでは取りこぼしや大敗も多い。伸び一本の調整では自分の技量では難しい。柔軟性も磨いていかないと。

——今後の目標は本部選手も2度勝っているレディースチャンピオン制覇？

大きな目標を聞かれたら「レディースチャンピオンを勝ちたい」と口にはしています。ただ、最近胸を張れるようなレースができていない。お客さんから見たら、こんな成績の私が「将来レディースチャンピオンを獲りたい」なんて言ったら「ははは……そんな選手じゃないだろう」……って言いにくくなるでしょう。私がお客さんだったらそう言いたくありません。だからまず目の前のレースで結果を出して、1年に1回は優勝するとか短い期間で目標を達成していきたい。それを積み重ねて行けば大きなレースでの活躍にもつながると思っています。

BOAT RACER'S HOTLINE

山口真喜子 Makiko YAMAGUCHI

登番	支部	出身	期	年齢	級	前期勝率	通算勝率	通算1着	通算優出	通算優勝	2024年賞金	生涯賞金
5129	長崎	長崎	126	28	A2	5.64	4.28	85	6	0	2000万円	6243万7516円



長崎から登場した次世代クイーン F3を経験して得たものとは!?

○父の猛ブッシュ
——ポートルレーサーになったのは?

小さな頃から父に「ポートルレーサーになれ」と言われていました。子供の頃、レース場に連れて行ってもらっていたとは思っていませんが、記憶にはないですね。

——高校卒業後、陸上自衛隊へ。

高校を卒業する前に父からレーサーになることを強く勧められたんですけれど、当時はまだポートルレーサーに興味を持ってなくて…。高校2年生の時に一度、養成所の試験は受けたんですけど、自衛隊への興味が強くて、卒業後はそちらに進みました。

——その後、再度養成所を受験。

自衛隊には4年いて、親に「ちょっと自衛隊を辞めたいかなあ」とって相談したんです。すると、そこからまたポートルレーサーになることを猛ブッシュされました。2回目の養成所受験で、高校の時と合わせて3回目で合格することができました。養成所での成績は中間くらいでした。生活は苦にならなかつたんですが、減量が厳しかったですね。自衛隊はどちらかというと体力をつけたいといけません。食べたいものを食べることができたんですけど、養成所では好みに食べることができない。そこはきつかったですね。

○痛恨のF3を経て

——2020年5月、コロナ禍の中でレーサーデビュー。

デビューした頃はコロナの影響

もあって、大村で練習ができなかつたんです。実戦で勝負という感じで、戸惑いもあってなかなか結果が出なかつたですね。そんな中、唐津や福岡では練習ができたので出向きました。碧南(愛知県)まで練習しに行ったこともあります。デビューした頃の頃だったので、移動にお金がかかるし、当時は大変でした。

——その後フライングに泣かされた…。

22年12月に大村で1本、その直後の唐津で節間2本、1週間でF3になってしまいました。その頃は初めて優勝戦に乗って、勝率を5点台に乗せていたこともあって、気合いが入りすぎていましたね。それによって成績もガクンと落としてしまった。痛かつたですね。

——長い休みで得たことはある?

節間に2本切ってしまった唐津でも、休みの間に練習させてもらってすごく感謝しています。それまではスタートで勝負という気持ちがあつたけれど、さすがにもうスタートは行けない。練習でも道中で何とかするということを意識して乗るようになりました。そこからスピードを意識しながら乗るようになりました。スタートに関して、今は質を求めるようにしています。

——25年前期適用勝率は5・64をマークしてA級に昇格。

最近道中でも少しずつ追いつけるレースが増えてきていると思います。一方、課題はエンジン出し。

出ているという状態でレースに行くことがほとんどないですね。今は乗り心地と出足を重視しています。F3になって以降、伸びはあまり求めていません。まずは乗り心地ですね。スタートはようやく行けるようになってきたものの、まだビビることはあります。

——2月には初のPGIスピードクイーンメモリアルに出場した。

準備勝戦には乗れたけど、1着が1本も取れなくて…。いつもとは雲間が違いましたね。記者さんの数も違いますし、お客さんも多かつたです。次は頑張りたいです。

——山口真喜子のここを見て欲しい。

乗りやすそうに走っている時ですね。展示タイムはあまり気にしてません。実際に周回展示を見てもらって、スムーズに回れている時はいいと思います。

——25年後期もA級をキープ。今後の目標は?

優勝をしたけれど、なかなかできないですね。冷静さが足りない。あと走りに波があります。エンジンが出ていない時に這ってしまふ。これをなんとかしたいです。そして次はA1級に上がりたいです。あまり先のことよりも、今は目の前のことをしっかりやっていきたいですね。選手になって父も喜んでくれています。「両親に家を建てる」という目標があります。まだ実現はしていないし、そこへ向けて今、頑張っています。